

## 梅窓院通信

No.45

2010/01/01

青山



中島住職(右)と藁谷副住職。

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

新年明けましておめでとうございませう。本年もよろしくお願ひいたします。

平成二十二年は、浄土宗にとっては翌二十三年に迎える宗祖法然上人の八百回目の年忌法要、八百年大遠忌の前年にあたり、各種行事や法要が目白押しとなる一年です。

浄土宗は法然上人の素晴らしい人格ならではの懐の深い教えがその神髄です。こうした行事や法要で、その教えに触れていたただける年にしていただければと思います。

さて、当院では本堂上の四階に少人数の葬儀や法要のための「法堂」を作ります。高齢化が進む中、参列者の少ない葬儀式が多くなったことから、使い勝手の良い手頃な式場が必要になったからです。棺(祭壇)と一对の供花で見栄えのする式場で、この二月には竣工予定です。

続いてのお知らせですが、墓地整備の最後となります本堂側入口から入った右手墓地整備を今夏から始めさせていただきます。すでに整備し終えたところ同様、水はけを良くするための工事になります。そこに墓地をお持ちの方にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力いただけますよう、紙面から重ねてお願い申し上げます。

さて、八百年の大遠忌を迎えられる法然上人ですが、そのお弟子さんには本当に色々な方がいらっしやいました。農民から武士、公家、そして泥棒や遊女、他宗の僧侶など。その人柄とただ念仏を称えるだけでよいという法然上人のシンプルな教えは教養の有無、お金の有り無し、職業の種類を問うことはありませんでした。ぜひ、こうした法然上人の魅力を各種大遠忌行事や法要で触れていただきたいと思います。

# 仏教歳時風物詩 (8)

## 迎春の慶賀

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦 上人

# 年

賀・年始は、新年の祝詞・賀詞を述べるために、親戚や知人友人、近隣の方々を訪問することである。普通は正月三が日の間、あるいは松七日・松の内までということであるが、いろいろな事情やつきあいのあり方によって、年賀の訪問の日柄も初春正月の慶賀に免じて少しくずれることもある。

季語としては、ねんらい年礼・年の礼・初礼・正月礼・春の礼・回礼・門礼・年賀回り・年始回りなどを挙げている。この年賀・年始の季語のいわば傍題として、御慶というゆかしい祝詞がある。

御慶とは、「きよげい」と読むが、「ごけい」と読んでもよい。おめでたい、およろこびという意味で、かつては年賀に交わし合う祝詞・祝言であった。「謹しんで御慶申し入れます」「明けまして御慶申し上げます」という言上によって、おめでとうございますの賀詞としたのである。

新春の御慶はふるき言葉かな (宗因)

談林俳諧の棟梁であった西山宗因の年賀の挨拶句である。軽妙洒脱な言葉の世界に遊んだ宗因ならではの恬淡とけしきの中で味わいたい。

親里の山へ向つて御慶かな  
ざぶくと泥わらんぢの御慶かな (一茶)

小林一茶の二句である。ふるさとの山へ向かつて「おめでとう」の祝詞を述べる一茶であるが、足下はぬかるみ歩いてきた泥草鞋である。

ところで一代の念仏行者徳本上人(一七五八―一八一八)は、別時念仏、不断念仏の実践と、個性的な筆遣いの徳本名号やすぐれた念仏道歌を数多く残したことでよく知られている。紀州日高郡に生まれ、農事のかたわらの不断念仏、諸所に草庵を結んでの苦修念仏と遍歴し、これまでの長髪長爪の異形を洛東鹿ヶ谷法然院で改めたのが四十六歳。その年、江戸小石川伝通院で浄土宗の宗戒両脈を受けている。そして六十一歳で正念往生するまで、多くの弟子に囲まれ、念仏の弘通によって各地の人々と結縁し、「徳本行者」の尊称とともに広く親しみ慕われてきたのである。

この徳本行者の「新春御慶の讃」と題する道歌から、

新春の御慶めでたく唱ふれば

阿弥陀仏々無量の寿福

新春の御慶めでたく南無阿弥陀仏

相も変らず唱え奉る

という二首を紹介したい。新春慶賀の御慶念仏を、まずは徳本行者流の祝詞に置き換えたものである。

一日二六時中、一年十二か月を念仏三昧に明け暮れた徳本行者は、年賀年始の挨拶もすべて徳本念仏で、「阿弥陀仏々」と称え申されていたことであろう。徳本行者の法名は、「名蓮社号誉称阿」である。まさに、六字名号・称名念仏の中にこそ徳本行者のすべてがあったものと思われる。

さて初春元朝、年明けの朝のおつとめ、初勤行・初読経である。淑気を含んだ初御堂の静寂に、初開扉で迎え入れた新春の香気。初太鼓の響きに初鐘の余韻が、堂内の厳肅な緊張を解きほぐす。初燈明の初明かりが、香煙のしめやかなゆらめきを映し出している。読経の声にも、回向の心にも、はじめてという新しい気分の思い入れと、めでたさを祝い願う祈りが込められている。

四方の春、迎春、この初春はまさに吉春である。御慶、謹賀新年の祝詞とともに、新年のめでたさに福寿・福德の願いを込めて祝い合い、よろこび合いたい。

無事平安御慶念仏称うなり

(裕彦)

(大正大学教授)



西沢正彦上人のご法話

### 十夜法要・芋煮会

11月21日(土)



例年とは違い、ジャズを聴きながらの芋煮会でした。

### M・ファン・デン・フック

ピアノリサイタル

11月28日(土)



素敵なりサイタルとなりました。

### 秋彼岸会法要・彼岸寄席・お彼岸ライブ

9月23日(水)

秋彼岸法要の様子



第48回

念仏と法話の会

10月15日(木)

## 行事報告

## 九・十・十一月の



今年からの新法要

# 修正会

しゆしようえ

2010年1月1日(金)

## 修正会法要

午前10時～  
2階 本堂



## お雑煮

午前11時～

1階 観音堂エントランス

※今年のお雑煮の振る舞いは元旦のみになります。  
なお数に限りがございますので予めご了承下さい。

### 修正会に寄せて

修正会とは、正月のはじめに三日または七日、十日にわたってその年の吉祥を祈願する法会、あるいは翻邪修正(誤った行いを改め、正しい行いをする事)の意味ともいわれています。

神護景雲元年(767年)正月に畿内七道諸国の国分寺に吉祥天悔過を修した事や、天長四年(827年)に東西の二寺で薬師悔過が勤められた事に始まり、平安中期以降には諸大寺に行われて民間にも広まりました。浄土宗では「無量寿経」というお経の一文の「天下和順/日月清明/風雨以時/災厲不起/国豊民安/兵戈无用/崇徳興仁/務修礼讓」(この世は平和で日月は明るく照らし、風や雨は必要だけ吹いたり降ったりし、災いが起こることなく、国は豊かで民衆は安らかで、武力を必要とせず、徳を重んじ仁を行い、務め納めて礼をわきまえ、護るべきは護る)が読まれます。

これは極楽浄土の様子を説いたものですが、出来ることなら、この一年が浄土のような平和の年になるようお願いを込めて祈ります。

よく昔から「一年の計は元旦にあり」といわれます。年のはじめに、今までの誤った行いや罪を悔い改め、新しい勇気と希望に満ちた第一歩を踏み出すこと、それが新年の道しるべとなるのではないかと思います。

今年から当山でも修正会を行うことになりました。元旦で皆様もお忙しい中ではあるかと思いますが、まずは菩提寺に詣でるようになりたいものです。

(法務部)



# 「青山・梅窓院」の 目指すもの



中島真成住職(なかじま・しんじょう)  
昭和32年6月13日埼玉県杉戸町生まれ。

19歳で僧侶になる。理由はお寺に生まれたから。大学卒業から梅窓院に入山。趣味は海外旅行、すでに40カ国以上に渡航。一番記憶に残っているのはフランスのバリ。特技も海外旅行。

## 新行事となる元旦の修正会

**司会(編集部)** 今日新年号特別企画として住職、副住職に梅窓院についてお話しいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

さて、今春からは元旦に修正会を行います。十夜に次ぐ新しい仏教行事が始まりますね。

**中島住職(以下住職)** 一年の初めに阿弥陀様に、そしてご先祖にお参りいただき、無事に正しく一年を過ごせるためにという法要です。

また、核家族が進みお雑煮を作らない家もあると聞きますので、お雑煮をお寺で振る舞わせてもらいます。お参りの方の心もお腹も満足していただくという行事です。

**司会** 住職はお寺に来てもらう為に色々行事を増やされていますが、以前、先々代の真孝住職、先代の真哉住職時代は如何でしたか？

**藁谷副住職(以下副住職)** 戦前までは御忌(浄土宗祖・法然上人の追善法要)、施餓鬼会、十夜会、戦後は施餓鬼会だけ

でした。

**司会** そうすると、今が梅窓院の歴史上でも最も活動的な時期といえますね。

**住職** そうですね、各種仏教行事も先ほどの行事に加え、春秋の彼岸会、盂蘭盆会があり、さらに念仏と法話の会、仏教講座、団体参拝旅行。また一般行事では、文化講演会、コンサートと一年中絶

え間なく各種行事があります。

**副住職** お通夜やお葬式で檀信徒さんと話す、「色々な行事をやられていますね」と言われます。

また、「立派なお寺ですね」とも言われるのですが、こちらは少々皮肉がこもっていることも……。

**司会** 少々皮肉というのと、その立派は何を指しているのでしょうか。

**住職** それは新しい伽藍のことでしょう。以前とは見違えるビルになった訳ですが、古いあの建物が良かったという方はいますから。

## 新伽藍が意味すること

**司会** この『青山』でも本堂復興事業は何度も記事にしていますが、改めて、その経緯を教えてください。

**住職** 先代までは檀信徒さんが八百軒ぐらいでしたが、古い会館を始めとする諸堂伽藍を維持するのに、東京オリンピックで境内地は相当減ったものの、残ったお寺の飛び地などを処分して維持費や伽藍の建設費にあてていました。

**副住職** 梅窓院は先々代も先代も護寺費を集めていませんでした。檀信徒に頼らない、という考え方でしたが、それはお寺の資産があつたからできたことでした。

**住職** 先代が祖師堂の建設時に初めて寄付を集めました。思うようには集まらず、また観音堂建立の寄付の時も同じでした。他のお寺さんに聞いても、



どうも都心のお寺は寄付が集まりにくいようです。

高度成長とともに檀信徒さんも給与所得者が多くなり、「よし、お寺のことだから」とボンと寄進をしてくれる大店の檀信徒さんも減りました。

**副住職** それに檀信徒さんがどうしてもお寺から遠いところに住まわれる。地方のお寺だと、お寺の周りが檀信徒さんと、日頃から密接な関係にあります。

**住職** ですから、青山という好立地のそれなりの大きなお寺ですが、見た目と違い、内情は大変だったのが本当のところですよ。

**司会** 都心のお寺の悩みですね。

**住職** ええ、ですから私の代で、先代の念願でもあった墓地整備をし、護国寺費を檀家の皆さまにお願いし、そして本堂の復興を決心したのですが、これは、梅窓院を維持していくための大きな決断だったのです。

**副住職** その大事業で梅窓院の景観は大きく変わりました。

それまでもいわゆる伝統的なお寺のたすまいとは言えなかったかも知れませんが、伝統的な外観を残すのは阿舎、最勝寶塔と山門だけとなりました。

ただ、本堂にお参りいただければわかりますが、その荘厳は過

去の梅窓院にはない、壮麗かつ重厚な内陣になっています。

**司会** 本紙でも特集で連載しましたが、京都の匠による手作りの内陣は数百年後の檀信徒さんにも喜ばれる荘厳、ということは何でもわかるかと思えます。

## 檀信徒が二千軒のお寺

**司会** 墓地整備も最終段階に入ったようですが、檀信徒さんの軒数はどのくらいになったのでしょうか？

**住職** そうですね、おおよそ一千九百軒ですよ。

**司会** そうすると、古い檀信徒さんより、新しい檀信徒さんの方が多いうことでしょうか。

**住職** 数年前に逆転しましたね。

**司会** なるほど。お寺離れが進んで、お寺の墓地よりも霊園墓地の方が人気がある中でも梅窓院の墓地は好評ということですね。

**住職** それは青山という立地ですね。それに加えて梅窓院という寺格もあると思います。

**副住職** この檀信徒さんの葬儀に会葬された方で、ここが気に入る方。また、ふらりと散歩の途中で寄って気に入った方も結構います。

**司会** 実際にお寺に来ることで気に入られるのですね。

こうして檀信徒さんが増えることで大変なこともあるでしょう。

**副住職** 土曜日曜は平均して一日に五

件は法事があり、私たち法務部は大変忙しくなります。

**司会** 法務以外にも大変でしょう。

**副住職** 檀信徒さんの窓口というところ、護国寺費や法要の案内は檀信徒部が行い、お墓参りは受付さん、墓石は日本エキスパート（梅窓院専門の管理会社）、そして法要は私たちということになっていますが、檀信徒さんが増えると、どこも忙しくなります。

**住職** 今、梅窓院と管理会社を含めると僧侶を含めた約五十人の職員がいまですの、十分対応できる為のシステムを整えているつもりです。

住職、そして住職の奥さんという家族が窓口になる、といった対応はもうできなくなっています。

## 檀信徒とお寺を結ぶもの

**司会** そういう中で、檀信徒さんとの接点をどう持つか、どう声を聞いていくかというのが課題ですね。

**住職** いま、檀信徒さんとの接点は、法事・墓参、葬儀、各種行事、詠唱、そして寺報などの印刷物になるかと思えます。法事などの仏事は昔と変わっていませんし、年忌法要は決まっていますから増やせるものではないありません。そうすると、各種行事、これは仏教行事、一般的な行事を含めてですが、

こういふものでより接点を

多くしていきたい、というのが私の考え方です。そういう中でみなさんの声を聞かせてもらえるといいのですが。

**司会** なるほど。

ちなみに檀信徒さんが一番多く来られる行事は何ですか。

**副住職** 念仏と法話の会は昔からの行事ですが、多い時は百人を超えたのですが、最近は二十、三十人ぐらいですね。

**住職** これも、最近始めた行事ですが、新盆を迎える家で柵経には来なくて結構ですというところが増え、代りにお寺で供養しようということで、盂蘭盆会を始めました。これは多くの方がお見えになります。

ただ、できれば念仏と法話という浄土宗寺院としての基本的なもの、つまり念法会に魅力を感じる方が多いというのが理想なのですが……。

**司会** ある意味、それがまさにお寺離れかもしれませんが、それに梅窓院としてどう対応していくのでしょうか。

**住職** 昔からお寺はお年寄りが集まる



藁谷真敬副住職(わらがい・しんきょう)  
昭和23年12月30日福島県いわき市生まれ。

23歳で僧侶になる。子供の頃から山寺の和尚さんに憧れていたことと、大学の総合仏教研究所で仏教学の研究をしてミイラとりがミイラになった。大学の卒業式の日から梅窓院に入山し現在に至る。趣味は古美術鑑賞。特技は剣道。



ただ、今は核家族化の中で、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らす子供が減りました。そうすると、毎日仏壇にお水やご飯、お線香をあげる姿を見る機会がなくなり、一緒にお寺へという機会も減ります。そのうえ、お父さんやお母さんは家庭を守るのに忙しいですから、お寺に足を向ける時間もない。

**副住職** 加えて今の子供は忙しいですからね。昔はお寺に行くと、お菓子をもたえてそれが嬉しかったのですが、今はお菓子では吸引力になりません(笑)。

**司会** そうですね、家庭環境と社会構造が大きく変わってしまった。

**住職** ですので、お年よりから若者、そして子供と、家族で来やすい行事や、行事の時にお寺に臨時の保育所を設けるなど、とにかくみなさんがお寺に来やすい工夫をしています。

また、若い方に来てもらおうと、春秋のお彼岸でライブバンドのコンサートも催しました。

**司会** 梅窓院のお坊さんで、バンドのドラマーでもある瀧沢さんのプロデュースでしたね。

**住職** ええ、彼の仲間を通じてライブハウスで人気のグループにも来てもらいました。ですが、少々、檀信徒さんの温度差があったのか、残念ながら、普段、お寺にあまり縁のない若者が押し寄せる、という行事にはならなかったですね。どちらにしろ、試行錯誤は覚悟のうえ、新しい梅窓院のスタイルで、檀

信徒さんがお寺に望んでいることに応えられるようにしたいと思っています。

### 寺報『青山』も大事な窓口

**住職** また、こうして皆様に読んでいただいている『青山』も貴重な檀信徒さんとの接点ですので、『青山』は新年号に限ってですが、墓地の名義人であるおじいちゃんやおばあちゃんと別居されている若い方の家にも送らせていただいています。

**司会** なるほど。同居していない方にはお寺からの情報も伝わりにくく、お寺は縁遠くなる一方ですものね。

**住職** それに、今はインターネットやホームページという時代ですが、やはり紙媒体だからできることが色々ありますから。

**司会** そういう意味では、この『青山』の役割は大きい。

**住職** 平成二十三年には法然上人の八百年の大遠忌を迎えますので、紙面でも、法然上人の魅力、浄土宗、仏教の魅力をもっとお伝えしなくてはいいけない。

**副住職** そうですね、一般的な寺報は、住職が一人で作ることもあり、一年に一回出すのが精一杯。しかも、内容は仏教の話とお寺の行事報告だけというのが普通です。

**住職** もともと『長青』という寺報を発行していましたが、この『青山』はより幅広い内容で読みやすい紙面作りを心掛けています。

**司会** 私たち編集部も八百年大遠忌に向け、紙面を工夫していくつもりです。

**住職** 本来お寺は檀信徒さんが、布施という形でお坊さんやお寺さんの面倒をみて、法施という教えをもらっている

たものですが、時代の変化やお寺を取り巻く環境が変わり、その変化がより激しい都心では、そういう形態のお寺が少なくなっています。

この梅窓院も同様ですが、今は新本堂を建設して六年目、色々な意味で過渡期かと思いますが、少しでも身近なお寺になるようにしていきたいと思っています。そういう意味で、遠慮なくご意見をいただければありがたいことです。

**司会** この『青山』も大事な役割を担えるようにしていきたいと思っています。今日はありがとうございました。



## 我が家の宝物!

ご自慢のお孫さんと『青山』に載りませんか?

お孫さんと一緒のお写真と推薦者のおじいちゃん・おばあちゃんのコメント(30~150字程度)を青山文化村までお送り下さい。お孫さんのお名前、お年も忘れずに。(お送り頂いたお写真は返却できませんのでご了承下さい。)

沢山のご応募お待ちしております。

### 投稿者より

信州在住のため、埼玉に暮らす孫とはなかなか会うことができず、あっという間に大きくなってしまふのが寂しいようでもあり、嬉しいようでもある今日この頃です。会えない分、今は孫の送ってくれる手紙が楽しみです。何はともあれ、孫が元気であれば私たちも頑張らねばと精が出るものです。(祖父・ちゃん(3歳))

### 編集部より

少し照れている姿がとても可愛いですね。おじいちゃんと仲良しなのが伝わってきます。

※今回は見本として、梅窓院職員である さんのお子さんと、おじいちゃんのお写真を掲載致しました。  
※次号からはカラー頁で紹介いたします。

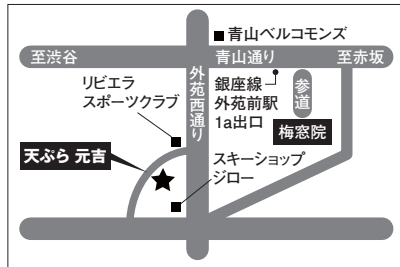
〒107-0062 港区南青山2-26-38  
青山文化村「我が家の宝物」募集係



天ぷら 元吉

外苑西通りの裏路地にひっそりと店を構える天ぷら『元吉』さん。店先や店内は季節の草花で上品に彩られ、時期に合わせ桜や紅葉の枝を飾り日々変わりゆく表情を楽しみむ事が出来る。  
素材を最も生かした調理法は天ぷらと話すご主人のおすすめは季節のお野菜。今の時期は蓮根だそうだ。

そのほかカウンターの本箱には選りすぐりのお野菜が納められ目を楽しませてくれる。  
出来上りを耳で楽しめるのも天ぷらの醍醐味の一つ。  
ランチは限定十四食で、かき揚げと穴子の天井と小エビのかき揚げ丼の二種類から選ぶことが出来る。その内穴子は五食のみなのでお早めに。  
お家では味わえない職人の味を味わい是非足を運んで頂きたいお店だ。



■青山ベルコモンズ  
至渋谷 青山通り 至赤坂  
リビエラスポーツクラブ 外苑西通り 外苑前駅 1a出口 梅窓院  
天ぷら元吉  
銀座線 参道  
スキーンショップ ジロー

営業時間/ランチ(水・木・金限定) 11:30~13:30  
(無くなり次第終了)  
ディナー17:30~24:00(LO 23:00)  
定休日/日曜 席数/9席  
住所/東京都港区南青山3-2-4 セントラルNo.6 B-A  
TEL・FAX/03-3401-0722



▲穴子天井1600円。

▶季節ごとに変わる店内のディスプレイも楽しみの一つ。



◀毎朝ご主人が仕入れているこだわりのお野菜。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○ 頭陀袋繕ふ秋の深まりに

◎入選

○ 放牧の丘にひろがる鯛雲

○ 匂のもの山に供へて秋彼岸

○ 霧裾に身延の山は立ちにけり

○ 秋晴れや御苑の森の色づきて

○ 天高し団地の千ものとりどりに

○ いが栗の絨毯さつと通りけり

○ 虫の音や弾む会話の暫し止み

◎選者詠

○ 庄内の夕日小豆を干す庭に

（ワンポイントアドバイス）

「朝顔市」「西の市」「羽子板市」とかの行事。または「神田祭」「三社祭」とかの祭りの句を詠む場合、よく売り手の声が囁けるとか、男女がねじりハチマキをしているとか、あるいは神輿のかつき手が汗をかいているとかを詠んだ句が出ますが、こういう事柄を詠んだ句は「ゴマン」とあります。そこで少しずらしたところを詠んで新味を出す必要があるでしょう。わたしはかつて「熊手ゆくあとを手ぶらで歩きけり」「裏門にすらり出でけり西の市」などと詠んだことがあります。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「冬の季語」でご自由にお詠み下さい。1月15日を締切、平成22年3月発送の「春彼岸号」にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。  
〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。  
ウェブ編集室  
電話03-5368-1870

第三十七回

食は命

食養研究家 武鈴子

解く「座禅豆」

お正月の祝い肴の一つ黒豆は、昭和の初めまでは「座禅豆」と呼ばれていました。座禅豆の名は僧侶が座禅をするときにこの豆を食べると小水に立つのが少なくなるところからの呼び名です。また、煮しめた黒豆のことをもいい、江戸時代には醤油で煮た固く塩からいものと、砂糖を加えて甘く煮たものと二通りありました。

座禅豆を正月に食べる風習は、江戸後期のころから。三つ肴と呼ばれるかすのこ、黒豆、ごまめの三種は、徳川幕府がとくに奨励した祝い肴であるといわれます。徳川時代の庶民の台所はかなり簡素なもので、一般にはわずかな祝い肴で新年を迎えるのが普通でした。貧しい農家でもこの三つ肴があれば、立派に正月は迎えられると信じていたようです。そして数の子は子沢山に恵まれるように、黒豆は健康でまめに農事に励むことができるように、ごまめ(五万米)はお米をごまんと収穫できるようにとの願いがこめられていました。

なぜお正月に黒豆を食べるのでしょうか。それには、黒豆に、①血液の滞りをなくして血行をよくし、②水分代謝を促進してむくみを取り除き、③食べ物や薬の毒(中毒)を解毒する、働きがあるからです。家の中でたくさんのご馳走を食べたりお酒を飲んだりする機会が多いお正月にピッタリの食べ物なのです。

また、黒豆は黒砂糖と一緒に煮ると、咳を鎮め、声のかすれをなくする効果があります。寒い冬場の風邪薬といえましょう! 薬効を活かすには、黒豆を煮るときに浮いてくる泡は取り除かないほうがよいでしょう。泡は豆のもっとも大事な栄養素であり、旨みでもあります。見た目のよさより栄養価・効用を大切にしたいですね。まめで元気な一年でありますように!!



## 行事予定

### 第49回 念仏と法話の会

2月4日(木)  
時間 12時半～  
(受付12時より開始)  
法話 「自分が分かる仏教」  
川添崇祐上人



### 仏教講座

全講座 午後6時～8時  
受講無料・祖師堂

#### 仏・菩薩 — その教えと信仰

勝崎裕彦先生  
(香蓮寺住職 大正大学教授)  
③2/18(木) 仏・菩薩観総説

#### 古都長安と仏教

阿川正貫先生  
(浄土寺住職 大正大学講師)  
③3/4(木) 善導大師を中心に

#### 『四十二章経』を読む

新井俊定先生  
(天然寺住職 大正大学出版会主管)  
②1/22(金) 欲望について  
③2/26(金) 心の垢を取り除く

#### 個人と社会の民俗 — 結婚儀礼をめぐる —

本林靖久先生  
(真宗大谷派僧侶、大谷大学・佛教大学講師)  
②1/29(金) 婚姻儀礼  
③3/29(月) 厄年・年祝い儀礼

#### 法然上人のみ教え — 入門編 —

林田康順先生  
(大正大学准教授 大本山増上寺布教師 慶岸寺副住職)  
②2/8(月) お念仏の日暮らし  
③3/16(火) お念仏のご功德

※各講座第3回目の最終講座は、後半、茶話会となります。講師の先生方や受講生同士、この機会に交流を深めてください。

発行/梅窓院  
発行日/平成22年1月1日  
発行人/中島 真成  
編集/青山文化村  
住所/〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話/03-3404-8447  
FAX/03-3404-8446  
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/  
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp  
題字/中村康隆前浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院通信誌「青山」読者アンケートにご協力頂きまして有難うございました。これに限らずご意見ご要望ございましたら、是非とも青山文化村宛までお知らせください。また、今回から始まりました「我が家の宝物」のご応募もお待ちしております!!

## 平成22年

## 年間行事予定

- ◆ 修正会  
1月1日(金)
- ◆ 第49回 念仏と法話の会  
2月4日(木) 彼岸会風景
- ◆ 春彼岸会法要・寄席・物産展  
3月21日(日)
- ◆ はなまつり  
4月3日(土)～8日(木)
- ◆ 団体参拝旅行 ～日光 輪王寺～  
5月15日(土)～16日(日)
- ◆ 第50回 念仏と法話の会  
6月10日(木)
- ◆ 郡上おどり in 青山  
6月26日(土)・27日(日)
- ◆ 盂蘭盆会法要  
7月13日(火)
- ◆ 大施餓鬼会法要  
7月21日(水)
- ◆ 秋彼岸会法要・寄席  
9月23日(木)
- ◆ お彼岸ライブ  
9月25日(土)
- ◆ 文化講演会  
10月中旬予定
- ◆ 十夜法要・芋煮会  
11月20日(土)



彼岸寄席

彼岸会風景



はなまつり



郡上おどり



大施餓鬼会法要



お彼岸ライブ



十夜法要・芋煮会

※予定は変更になる場合もございます。ご了承下さい。



当日のお雑煮の内容は、写真と異なる場合があります。

修正会/午前10時  
場所 本堂  
お雑煮/午前11時  
場所 観音堂エントランス  
☆材料がなくなり次第終了となります。

今年も元旦にお雑煮を振舞います。修正会も行いますので、ご家族皆様でお参りください!!

梅窓院

だより

### 秋彼岸写真展開催

今年の秋彼岸に行く予定のお彼岸ライブにて、写真展を開催致します。そこで皆さんの撮られたお写真を展示してみませんか?ライブ会場に皆様のお写真を飾らせて頂きます。今回のテーマは「青山」です。「青山」にまつわるお写真でしたらカラーでもモノクロでも構いません。ライブ当日に人気投票を行い、一位の方には景品を差し上げる予定です。詳細は施餓鬼号にてお知らせ致しますので、それまで皆さんお写真を撮りためて置いて下さい!